

## 麦の高品質・安定栽培技術

実需者のニーズに応じた生産により国内産麦の需要を拡大するため、加工適性に優れた品種の開発と併せ、産地ごとにその品種の特性を十分に発揮できる高品質・安定栽培技術体系を確立する。

### 確立された技術の内容]

製めん適性に優れた日本めん用品種を育成

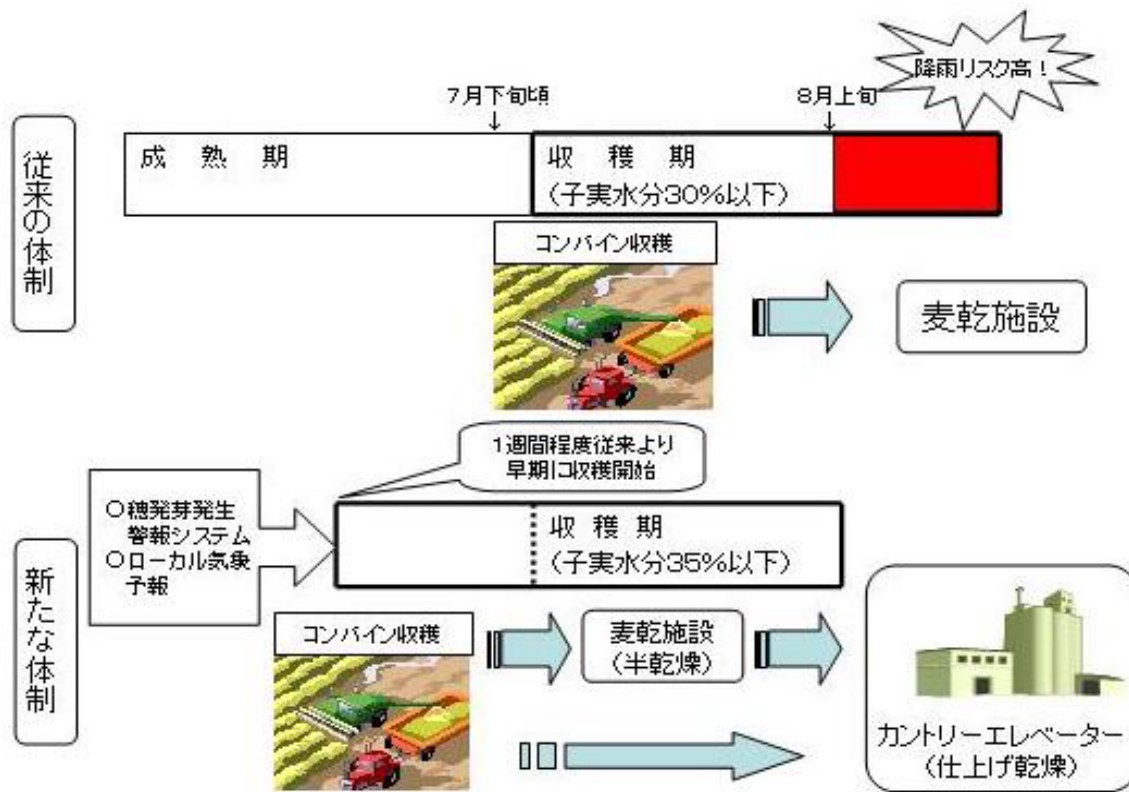
品種名	育成年次	製めん評点	育成場所
きぬの波	平成13年	73.5点	群馬県農業技術センター
ふくさやか	平成14年	71.4点	(独)近畿中国四国農業研究センター
春のかがやき	平成16年	72点程度	群馬県農業技術センター
(参考) A S W		75.4点	

パン用等多様な需要用途に応じた専用品種を育成

用途	品種名	育成年次	育成場所
パン用	ゆきちから	平成14年	(独)東北農業研究センター
	キタノカオリ	平成15年	(独)北海道農業研究センター
	ミナミノカオリ	〃	(独)九州沖縄農業研究センター
醤油・中華麺用	タマイズミ	平成14年	(独)作物研究所
麦茶用	さやかぜ	平成15年	(独)作物研究所
味噌用	マンネンボシ	平成13年	(独)近畿中国四国農業研究センター

### 高品質・安定栽培体系の確立

- 1) 北海道では、収穫期に発生する穂発芽を防止するため、出穂期以降の気温や降水量を活用した警報システムを確立。穂発芽の危険がある場合には、通常よりも水分含有量が高い段階から計画的に収穫作業を開始する体系を確立（北海道における導入率5割）。



2) 都府県においても、JA、生産者代表、市町村、普及センター等で構成する産地協議会を組織し、新品種の導入のための実証ほ場の設置、品質分析の実施等、品質の向上・安定化に向けた取組を展開し、地域の立地条件に即した高品質・安定栽培技術体系を確立。

## 【技術の経営面等への効果】

- ・製めん適性や収量性等が優れた新品種の導入と、高品質・安定栽培技術体系の確立により、日本めん、ビール、焼酎、麦茶、味噌等の需要用途に応じたきめ細かな品質管理が可能となり、国内産麦の需要を開拓。日本めん用では単収の向上（1割程度向上）により1俵当たりのコストが縮減。
- ・高水分収穫技術体系の導入により単収及び品質が大きく向上。

（北海道の実単収：375kg/10a(平成9～12年平均)

454kg/10a(平成13～16年平均)）

## 【普及上の留意点】

- ・新品種については、従来品種と比較して製めん適性や収量性が改善されているものの、穂発芽性や赤かび病抵抗性等は十分ではないため、病虫害防除等は従来品種と同様に注意が必要。
- ・高水分収穫技術については、高水分麦を速やかに収穫・乾燥できるよう大型コンバインやカントリーエレベーター等の利用体制を一体的に整備することが必要。

## 【参考成果物情報】(マニュアル、報告書等の所在情報)

- ・「麦類新品種の特性と栽培ポイント」（平成13 - 16年3月、麦類良質品種実用化・普及促進協議会）（連絡先：農林水産省生産局農産振興課 TEL:03-

3502-8111 内線3532)

- ・「麦の高品質化を目指して(農林水産研究開発レポートNo.1)」(平成13年、農林水産省農林水産技術会議事務局)(連絡先 TEL:03-3502-8111 内線5063)
- ・「21世紀の麦研究の鼓動」(平成14年6月、(独)作物研究所)(連絡先 TEL:029-838-8867)
- ・「大規模収穫・調製に適した品質向上のための小麦適期収穫システム」(平成17年3月、(独)北海道農業研究センター)(連絡先 TEL:0155-62-4279)
- ・「麦秋を取り戻す」(平成13年9月、(独)作物研究所)(連絡先 TEL:029-838-8867)

## **【問い合わせ先】**

農林水産省生産局農産振興課 (TEL:03-3502-8111 内線3532)

” 技術会議事務局地域研究課、研究調査官 (TEL:03-3502-8111 内線5063)

